

Brachial-ankle pulse wave velocity is associated with 3-month functional prognosis after ischemic stroke

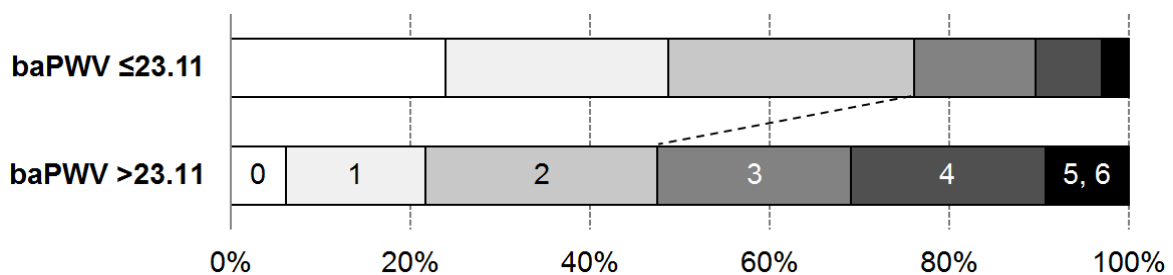
Ishizuka K, et al. *Atherosclerosis* 2016, in press

Brachial-ankle pulse wave velocity (baPWV)は全身の動脈硬化のスクリーニング検査として確立している。今回我々は、急性脳梗塞患者 327 例を対象として、baPWV 値と脳梗塞発症 3 か月後の機能予後の関係について検討した。

全 327 例のうち機能予後不良群 (modified Rankin Scale ≥ 3)は 105 例 (32.1%)で、平均 baPWV 値は良好群で 19.48 ± 4.76 m/s、不良群で 22.84 ± 5.41 m/s と不良群で有意に高かった ($p < 0.001$)。ROC 曲線により算出した最適なカットオフ値は 23.11 m/s であり、baPWV > 23.11 m/s は、年齢、性別、入院時 NIHSS、血圧値、心房細動及の有無などで補正後も有意に機能予後不良と関連していた (調整オッズ比, 1.51; 95%信頼区間, 1.08-2.11; $p = 0.016$)。

以上より、脳梗塞急性期に baPWV を測定することで、発症 3 ヶ月後の機能障害を予測し得ることが示された。

Distribution of modified Rankin Scale scores at 3 months after stroke onset in patients with baPWV ≤ 23.11 and > 23.11 m/s



Patients with baPWV > 23.11 m/s showed significantly poorer functional outcome than those with baPWV ≤ 23.11 m/s ($p < 0.001$).